

病院管理会に提出された意見書

田川光照 訳

『病院管理会に提出された意見書』は、1792年10月25日にパリ・ピック地区（ヴァンドーム広場を中心とする地区）の地区総会で病院管理会の委員に任命されたサドが、同28日にその管理会で朗読した意見書である。

凡例

- 一、翻訳には、Œuvres complètes du Marquis de Sade, en 8 vol, Cercle du Livre précieux, 1966-1967 の第11巻に収められたものをテキストとした。
- 二、原文中のイタリックはすべて傍点で示した
- 三、訳注は、本文中にはアラビア数字で示し、巻末に送った。

病院管理会に提出された意見書

(一七九二年一〇月二八日)

病院管理会にてピック地区代表委員がとるべき態度に関するピック地区の意向ならびに要望をしたため、同地区委員によって管理会にて朗読された意見書

市民にして同僚の諸君、

光栄にもピック地区より選出された我々委員は、以下の意見を貴管理会に申し立てるべき任務を同地区よりおわせられてまいりました。

一 パリ諸地区より選任された病院管理会委員の大半が内科医ならびに外科医であることを、我々委員の報告によってようやくピック地区は知ることができた。かかる委員構成は、パリの諸病院にみられる現下の悪習を一掃するという同地区が考える管理会の任務からして、危険きわまりないものであると指摘せざるをえない。その悪習の一半は、現在管理者ではないがその地位に就くことを期待しうる職にある人々に由来するのであり、彼らはおそらく旧体制下にみられた不都合以上に危険な不都合を新体制に導入しようと努めることであろう。またもう一半は、現に病院管理者の地位にある人々に由来するのであり、彼らはあまたの個人的理由から旧来の悪習を無理矢理にでも保存しようとするのであろう。したがって上のような構成によるなら、管理会が委員の多数による打算的連合に振り回されることになるのは目にみえており、管理会が着手する作業に是非とも必要とされる無私無欲な審議が阻害されることになる。それゆえ、我々の地区総会は医学にまったく無関係な我々を貴管理会に委員として派遣する

ことによって、医学の専門家たちによって行使されるにちがいない影響力をできる限り弱めようとしたのである。裁き手であると同時に被告の立場にもある専門家たちに任せただけは、仮に旧来の悪弊が断ち切られたとしても、それは新たな悪弊を導入するためにすぎなかったという事態にもなりかねないからだ。

二 ピック地区は、各地区に療養所を一つずつ設置するとの案をとうてい承認できない。我々は同地区より、諸々の不都合をいともたやすく蔓延させるがごとき方法に加担するぐらいなら委員を引き揚げるべし、と厳命されている次第である。諸君が要求されるなら、我々はその不都合を詳細に述べるつもりである。とはいえ、地区が公言している人間愛と慈愛の精神に鑑み、暫定的な施療院に限って黙認する腹である。ただし、その規模は最大で一〇ないし一二床にとどめ、一時的な収容にのみ使用することとし、病人は受け入れ態勢の整った病院に直ちに運ばなければならない。

三 ピック地区は、破壊を伴う計画についてはいかなるものも承認しない。我々委員が諸君の撤廃・再建案を地区に伝えると、我々を委員として派遣しているのは、諸君と協力して病院の管理体制を本来のあり方に戻すためであり、病院を破壊するためではない、という見解が同地区より我々に表明された。

四 ピック地区が望むところは、諸君が何らかの企図に着手する際には、諸君の作業に必要な資金を得るために前もって国民公会に請願書を提出することである。同地区は、資金問題に関して諸君が要求するがごとき融資のいかなるものにも応じない。それは第一に、同地区はずっと以前より公共事業に支出しており、資金が底をついているからであり、第二

に腹藏なく申せば、諸君の要望に応じることは貴管理会の構成に由来する利己主義を助長させることにしかならないであろうからである。

五 しかしながら、同地区総会は、貴管理会による「一五人委員会」の設置については歓迎している。その特別委員会を組織するにあたっては、同地区が指摘している管理会構成にみられる悪弊を蒸し返すことのないよう、十分に注意を払われるよう要望する。また、サレルノ校の構成員¹を委員に加えるのはできる限り少数に抑さえられることを、友愛と事業の成功への願いとからお勧めする次第である。同地区は、諸君が希求している華々しい業績に貢献すべく、古今を問わずできる限りの論文を収集して諸君に提供する準備を急いでいる。その結果、同地区構成員の一人から、病院の管理に関する優れた見解がみいだされるシャムセ²の著書一冊を貴管理会に提供するよう、我々は委託されてきている。

市民にして同僚の諸君、我々が貴管理会において代表しているピック地区の意向をお聞きになって、我々が我々を選任した人々の意思を逸脱しているのではないかなどとは、どうか疑わないでいただきたい。我々が光栄にも諸君を前に展開した見解は、あくまで地区民の意思に基づいたものなのであります。

地区総会は上記意見書に記され、また他の場所でも表明された見解を承認し、その見解を印刷して他の四七の地区に伝えることを決定した。

共和暦元年、1792年10月28日、地区総会にて。

起草者 サド
委員長 ギュズマン

書記 テルノワ

1 サレルノ校は、九世紀にはすでに存在していたイタリアの医学校で、「サレルノ校の構成員」とは医者のこと。

2 シャムセ(Claude Humbert Piarron de Chamousset: 1717-1773) はパリ生まれの会計士で博愛家。共済組合方式の病院を推奨した。1783年に2巻本の全集が出ている。